

# 震災学習

本紙朝刊企画の「震災ダイアリー」

## 記事活用し防災学習



神戸  
1995年1月17日の大震災で、神戸新聞の本社も壊滅的な被害を受けたが、新聞の発行を続けた。倒壊した家屋、懸命の救出劇、手洗い場に張り出された震災ダイアリー、須磨区白川台、白川小学校

教員が切り抜き張り出し 写真から当時に想像巡らせ

避難所での暮らし、復旧・復興に汗を流した人々…。当時の記者が撮影した写真から記憶を後世につなぐため、ダイアリーは震災発生から365日間を1日ずつ振り返る。今年1月17日の朝刊からスタートした。同小では、5年1組の担任四間まい子教諭40が、朝一番に記事を読ませ、児童の目に留まりやすい手洗い場の前の壁に掲示する。子どもたちは授業の合間に手を洗いつつ、記事に目を通す。帰りの会場で、プロジェクトで映し出されたダイアリーの写真を見て話し合う。3月4日の帰りの会で、四間教諭が紹介した同日掲載の写真には、不通になった線路を子どもたちが自転車で行く様子や、道路を通らない理由について、児童は「地割れした道路は危ないから」「建物がかさねているから」と考えを巡らせた。国谷一葉さん(11)は「神戸新聞が震災を記録し続けているから昔の様子が分かり、復興した今の神戸を見ると神戸の人ってすごいと思った。地震はいつ来るかわからないので、しっかり備えたい」と話した。

神戸新聞2024/3/25付朝刊広域版

神戸新聞2025/2/15付朝刊神戸版

# 阪神・淡路大震災を知らない世代が「語り継ぐ」



避難所に関する新聞記事を読んで気づいたことを付箋に書き、台紙に貼り付ける児童

今年も2月に行われる

須磨区

人に教えた。須磨友が丘高校は日本新聞協会のNIE（教育に新聞を）実践指定校で、横尾小での授業は3

NIE

教育に新聞を

須磨友が丘高校（須磨区友が丘1）の生徒会役員12人が、横尾小6年の45

を報じた新聞記事を見聞に配り「二つの避難所で困ったことは」「地震に備えて今何をするか」と問いかけた。児童は記事を読み「ゴミの発生やトイレのにおい」「水や食料、毛布などを用意しておく」と付箋に

書き、模造紙に貼った。横尾小6年の土山康貴さん(12)は「新聞を読んで避難所の状況を想像し、震災について真剣に考えた。ちゃんと備蓄できているか家に帰って確認したい」と話した。

どのボランティアをしたといい、仮設住宅が立ち並ぶ写真などを見せながら現地の状況を説明した。

# 震災記事教材 高校生が授業

横尾小「自分ごとと考えて」

回目。

高校生は、30年前の神戸と昨年の能登の避難所生活を報じた新聞記事を見聞に

書き、模造紙に貼った。横尾小6年の土山康貴さん(12)は「新聞を読んで避難所の状況を想像し、震災について真剣に考えた。ちゃんと備蓄できているか家に帰って確認したい」と話した。

阪神・淡路大震災と能登半島地震を報じた新聞記事を教材に、高校生が小学生に防災でできることを伝える授業が横尾小学校(須磨区横尾5)であった。児童らは記事を読んで被災者の暮らしを知り、日々の備えの大切さを学んだ。(船田翔太)



避難所に関する新聞記事を読んで気づいたことを発表する児童